

## 会員の声

## 職場検診における 糖尿病スクリーニング

関川 暁\*

篠崎らは定期健康診断における糖尿病スクリーニングにおける尿糖検査の有効性を検討し報告している<sup>1)</sup>。著者らが指摘している通り、科学的根拠にたった保健予防活動の必要性に賛成である。特に職場検診の対象には、30代、40代の若～中年成人が含まれ、かつ、同一人のデータを経年的に観察しうる利点がある。この年代の疫学データは、将来の日本の糖尿病の動向をとらえ、保健施策を決定していく上で、非常に重要であると考えられ<sup>2)</sup>、その観点から三つ程意見を提起したい。

スクリーニング検査の感度、特異度は、目的疾病の診断基準に基づいて算出される。診断基準は、新たな検査法、病態に対する新たな理解等で変わりうる。糖尿病においては、アメリカおよび日本糖尿病学会が新たな診断基準を提唱した<sup>3,4)</sup>。主な改訂の要点は、空腹時血糖値に、より重点を置くもので、単独では、従来、140 mg/dl 以上を糖尿病としていたが、新しい診断基準では、126 mg/dl 以上となっている。また、日本糖尿病学会の新基準では、標準化 HbA1c による基準も提唱されている<sup>4)</sup>。したがって、適切な採尿時間による食後尿糖検査の糖尿病スクリーニングにおける有用性は、新しい基準のもとで、空腹時血糖値や標準化 HbA1c と比較検討する必要があるろう。

第二は耐糖能異常の扱いに関してである。その頻度は、糖尿病の1.5～2倍と報告されており<sup>5)</sup>、スクリーニングや介入の是非は保健施策の上でも、大きな問題である。米国では耐糖能異常者3,000人以上を対象とした、Diabetes Prevention Program (DPP)<sup>6)</sup>が進行中であり、現時点で介入

の有効性に関する科学的根拠が十分に蓄積されているとは言い難い。DPPの結果が待たれるが、肥満の頻度が著しく高い米国<sup>7)</sup>のデータをそのまま日本人へ適応できうるのかという問題もあり、日本人における独自のデータ集積が望まれる。

第三に、30～40歳代男性に関しては、今後の虚血性心疾患の動向が注目される<sup>8)</sup>。その観点から、耐糖能異常を、虚血性心疾患危険因子としてのインスリン抵抗性症候群<sup>9)</sup>の一つとしてとらえたデータの蓄積が重要と思われる。すなわち、耐糖能異常に加え、血圧、脂質、体重、ウエスト・ヒップ比を含めた肥満度等の経年的変化を総体的に解析できるデータを蓄積していく必要があるろう。

(受付 2000. 1. 11)  
(採用 2000. 2. 21)

## 文 献

- 1) 篠崎敏明, 山岡和枝, 矢野栄二. 定期健康診断における尿糖検査の糖尿病スクリーニングとしての有効性. 日本公衛誌 1999; 46: 790-97.
- 2) Sekikawa A, Eguchi H. One future direction of diabetes epidemiology in Japan (letter) J Epidemiol 1999; 9: 355.
- 3) The expert committee on the diagnosis and classification of diabetes mellitus: Report of the expert committee on the diagnosis and classification of diabetes mellitus. Diabetes Care 1997; 20: 1983-97.
- 4) 糖尿病診断基準検討委員会. 糖尿病の分類と診断基準に関する委員会報告. 糖尿病 1999; 42: 385-404.
- 5) Sekikawa A, Tominaga M, Takahashi K et al. Prevalence of diabetes and impaired glucose tolerance in Funagata area, Japan. Diabetes Care 1993; 16: 570-74.
- 6) The Diabetes Prevention Program Research Group. The Diabetes Prevention Program. Diabetes Care 1999; 22: 623-34.
- 7) Must A, Spadano J, Coakley EH et al. The disease burden associated with overweight and obesity. JAMA 1999; 22: 1523-29.
- 8) Sekikawa A, Kuller LH, Ueshima H et al. Coronary heart disease mortality trends in men in the post World War-II birth cohorts aged 35-44 in Japan, South Korea, and Taiwan compared with the United States. Int'l J Epidemiol 1999; 28: 1044-49.
- 9) Reaven GM, Ami Laws. Insulin Resistance. The Metabolic Syndrome X. Humana Press, NJ. 1999.

\* ピッツバーグ大学公衆衛生大学院疫学部  
連絡先: Dr. Akira Sekikawa  
3512 Fifth Avenue, Pittsburgh PA, 15213 USA  
E-mail: akira@imap.pitt.edu